

協会ニュース ディープな堺勉強会				
1	2021年(令和3年)	6月号(289号)	新名忍	戦跡巡りと知られる堺商人の足跡久家の存在
2	2021年(令和3年)	7月号(290号)	弘瀬俊子	中世の堺を探る
3	2021年(令和3年)	8月号(291号)	西本義見	いさな寄る魚介の宝庫
4	2021年(令和3年)	9月号(292号)	小川正夫	「三好一族と堺」もうひとつの三好館跡
5	2021年(令和3年)	10月号(293号)	川上浩	Sacay ベイエリア探訪ウォーク



《ディープな堺勉強会》

① 戦跡巡りと知られざる堺商人の足跡久家の存在

【新名 忍】

利休屋敷の逸話（私だけの秘話ですが・・・。）

切腹をさせた秀吉は度々、久家を訪れ、茶を楽しみました。帰り道・利休屋敷跡の近くで「殺してしまいゴメンネ！」と念じながら大坂へ帰っていったのではないのでしょうか。



これには久家・久の森（辨天社）の説明が必要です。久吉左衛門ですが、堺市史に、「豊臣秀吉の征韓に方り、其船隊堺に於て艤装を終り、出発に際し吉右衛門、肥前まで海路の案内をなし、功勞により、黒鳥毛の槍を与えられた。因って所有船の徽章とした。是より堺の船舶には、鳥毛を樹つる慣習をなし、世人鳥毛の船を見ては、皆之を堺船と称するようになった。」とあります。（『堺市史第一編人物誌』 309 頁 堺市役所）

なぜ秀吉は久家へ度々訪れたのか、疑問が残ります。私は利休屋敷跡との関連性があるのではと推測しました。

「久の森・辨天社」についてです。当時は久家のすぐ西側が紺屋浜で更に南へ芦原浜、出島と続いていました。ちぬ鯛の本場で秀吉も度々久家へ来て、茶室で茶会を開いたり接待を受けていました。秀吉は久家と昵懇（じっこん）になり、織田信長からもらった黄金造りの辨天像を久家へ贈り、久家はの隣地の「久の森」に辨天社を建立して辨天像を祭りました。

そして、その労をねぎらうために、秀吉からたまわったのが英彰小学校地になっている浜地です。魚市を開設し、今日の魚市場の創始となっています。

【宇賀神社と唱候（となえもうす）稲荷明神】



泉州最初の明神で、古くからこの港・海岸周辺の地主神です。火難・水難・盗難に御利益があるとされています。戦災に遭い、その後再建されました。（『由緒書』より）

現在は戦争で罹災し当時の賑わいは感じられない場所になっていますが、戦災の遺構が確認できます。拝殿後方、狛犬の頬が戦火で剥離しています。石鳥居の年号は文化 5（1809）年がきざまれ、黒く、戦火の痕跡が感じられます。

燈籠は戦火で黒く変色しています。

《ディープな堺勉強会》

② 中世の堺を探る

【弘瀬 俊子】

架空の地図を手に 500 年前の堺に思いを馳せての町歩き。元禄時代にこの町に住む老人に聞くと「昔はこのようなまっすぐの道にはあらず・・・。」と答えが返って来たとか。

今回の勉強会は「幻の世界に足を踏み入れる楽しみ」に胸躍らせながら始まりました。当日歩いたのは、熊野町東から神明町東あたりまでの寺町筋を中心に広がる昔は北ノ庄と呼ばれた辺りです。数少ない史跡をたどり、そこで当時を偲び想像の世界を広げました。

コースを思い出しながら、あの日案内しそびれた場所などを記載します。

① 大小路通り起点と晴明が辻

中世の大小路通りはここから長尾街道に繋がっていたので、南蛮商品が並ぶ華やかな商店街は今の熊野町戎之町の住宅地の下か？晴明辻とは今も各地に残っているが安倍晴明伝説であり、その碑が植え込みに隠れている。ここで占うとよく当たるとか・・・。

② 大通庵跡

天王寺屋（津田家）の菩提寺で、それならこの近辺に津田家の屋敷があったのでは？

③ 首切り地蔵尊

環濠を出た辺りにある地蔵さまで、孝行息子の身代わりになって「おいはぎ」に首を落とされたと言われる地蔵さまが祀られている。

④ 後小松天皇と藤

天皇が堺の金光寺に来られた時、藤をたいへん気に入られ、宮廷に移すよう命じられた。間もなく移植されたが木が日々元気なく、ある日白髪の老人が天皇の枕辺に立ち、「堺へ帰してください。堺でないと生きられません。」と言って消えた。その碑が宝珠院の前にある。しかしその藤は今はない。

⑤ 神明町とは。

奈良時代に聖武天皇が神明町東あたりに「神明の社」を祀られた。これが町名の由来となっている。現在の神明神社は江戸時代の起こりで、この町名とは関係はない。

⑥ 薬祖社（菅原神社内）

ここのご神体は対明貿易の折、足利将軍に献上された神農の神像を堺商人が頂き祀ったのが始まりと言われ、日本で一番古い薬祖社と言われている。

今は眼に見えぬ中世の堺ですが、歩いてみると石碑に当たり、図書館の郷土資料を紐解くと、その時代の人々の生活様子が私の脳裏に再現されてきて、頭の中でドラマが始まります。

まさに堺はわからない部分が多いから表現者にとっては「自由な町」なのかもしれませんね。



《ディープな堺勉強会》

③ いさな寄る魚介の宝庫

【西本 義見】

堺港における漁商は、源頼朝が征夷大將軍に就任した頃に遡り、畿内の魚類は全て堺浜より供給されて来たと云われ、堺の漁商が魚を供給しなかったら畿内一円では魚を食することが出来なかった。漁商は堺近海のみならず瀬戸内沿岸の魚介を独占的に商う組織を構成し、魚介を一時保管する問屋業〈納屋衆〉が生まれ、後に貿易商に発展していく。堺港から出島に至る一帯は波が寄せては返す絶好な漁場で、出島漁民の起源は、遣唐使の島として名高い広島県・鎌刈島に在った大伴氏の一族が追われて堺・名越の丘に移住し漁業の妙を教えた事が始まりと云われている。出島一帯は湊町と呼ばれ、紀州街道や小栗街道から環濠の南に架かる橋を超えると湊村に入る。

ヰに奏でると書く湊は陸上部分・漁場を意味し、ヰに巷と書く港は貨物を積載した船が碇泊出来るようにした水上部分を云う。この湊にまつわる話がいくつか伝承されている。

1. 鯨祭り

鎌倉時代、沖合の鯨を捕獲しようと漁師総出で網をすき準備が完了。ところが肝心の鯨は既に姿を消していた。漁師たちはこの鯨は只の鯨ではない、紀伊・熊野権現の使者なるべしと言って浜辺に集まり鯨踊りなるものを歌いながら模型の鯨を担いで出島浜から住吉大社まで練り歩いた。



くじらとろとて網まですいて くじら熊野へ

みなかえる 沖に見えるはくじらの山か おかへのぼせば黄金山

南海本線・湊駅前に鯨を題材にした与謝野晶子の二首の歌碑がある。他に鯨を題材にした歌碑は、宮崎県・青島にある金子兜太の二例しか見つかっていない。

2. 船待神社

菅原道真公が太宰府に送られる時、道明寺の叔母・覚寿尼を訪ねていたが、名残の尽きないうちに一番鶏が暁を告げた。鶏の声を恨めしく思い歌を詠んだが、それを知った里人たちは鶏を飼わなくなった。次に堺・菅原神社で休息し、この湊の浜辺に有った梅の古木に繋がれた船に乗船され九州に赴かれた。出島漁民は天穗日命〈土師・菅原氏の祖神〉を祀る塩穴 神社を建立、1001 年、子孫の菅原朝臣為紀が菅公(道真公)を祀り船待天神社と改名、古松の下から発見された道真公・腰掛石が残る。

3. 天下一御壺塩師・堺伊織

1683 年・猿丸藤太郎〈三十六歌仙・猿丸太夫の子孫〉が上鴨から湊に移り、紀州・雑賀塩 を土壺に入れ焼き直した湊塩壺を東福門院・和子〈まさこ〉に献上。天下一の美号を許され関白・鷹司殿下より「伊織」を賜った。船待神社に壺塩屋が寄進した。菅公の掛け軸の裏に書かれた系図には九代目壺塩師・伊織とある。

④ 『三好一族と堺』～もう一つの三好館跡～

【小川 正夫】

堺に阿波の豪族三好一族が進出したのは、三好長慶の曾祖父・之長(ゆきなが)の時代に始まる。阿波細川家の細川澄元と畿内細川一族の細川高国が、管領細川家(京兆家)の跡目争いで対立した「両細川家の乱」が勃発すると、応仁の乱で勇名を馳せた之長は、若き主君澄元を助け息子長秀と共に阿波勢を率いて活躍し、大阪湾の要衝である堺を軍事拠点として利用するために三好一族の館を堺に築いたのが、永正元年(1504)の頃とされる。

この堺の三好一族の拠点として、我々ガイドは、「海船政所跡」にある堺市の案内板を基にガイドをしているが、これは江戸時代(1684 年)に刊行された『全堺詳志』が元ネタである。しかし「海船政所」という項は、『全堺詳志』の著者 高志志巖(たかし しがん)の記述ではなく、「禅楽寺の大心(大徳寺古溪派の僧)著す所の海船政所の記曰く」とあり、他者の引用であることがわかる。因みに禅楽寺とは、文久改正堺大絵図では、南宗寺に隣接する大寺である。志巖自らは、これとは別に「海船館」という項に「昔此処に館あり。三好家の別業なり。・・・今、海船の梅翁寺其旧跡なり」と記録している。堺市の案内板はこの両者の情報をまとめたものだが、「梅黄寺」と記されているが、文久改正堺大絵図にも梅翁寺とあるので、こちらが正解であろう。この梅翁寺が何処にあったかということ、現在の錦西コミュニティーセンターの辺りである。(真生印刷の CanGo!Kan-go 地図アプリをインストールされている方は確認してみてください)このセンターの植え込みの陰にひっそりと「此付近三好氏海船館跡」と銘された石碑があるが、これは大阪府が大正 8 年に建てた物であり、我々お馴染みの「海船政所跡」の石碑は、堺市が昭和 33 年に建てた物である。両者の直線距離は 300m ほどであり、「東西 360 歩、(約 652)南北これに倍し」という三好館の規模からすれば十分範囲内である。



『全堺詳志』以外に堺に三好館があったという明確な記録は残ってないが、戦国大名の支配を受けない自由都市堺に、三好一族だけが居館を構えたということは、堺にとって三好一族が特別の存在であったことの証しであろう。三好一族は、堺を畿内制覇の為の軍事拠点として利用するだけでなく、戦国時代に需要の大きい四国の良材を堺の商人に捌かせることにより、財政基盤を整え、長慶の天下取りにも繋がった。三好館のすぐ南に今も材木町という町名が残るのは、四国からの材木荷上場が館に隣接していたということであろう。堺商人にとっても、三好とのパートナーシップは、商いの利益はもとより、三好一族がバックにあることで、外的脅威から守られるという防衛上のメリットも生んだ。織田信長という新興勢力が台頭した時も、堺の保守的会合衆は、三好一族への依存意識から脱却できず、長慶亡き後の弱体した三好頼りで信長に反抗し、手痛いしっぺ返しを被って、三好政権下で自由都市を謳歌した堺は終焉を迎えることになった。



《ディープな堺勉強会 最終回》

⑤ Sacay ベイエリア探訪ウォーク

【川上 浩】

水のあるところ人が集まる、人が集まれば町が活性化。観光視点で考えると水際を利用することが重要なことと感じています。日本全国を見渡すと、倉敷、近江八幡、大阪、博多、小樽、岐阜、新潟……。全国津々浦々、水のある所に人が集まります。世界に目を広げても同じ傾向です。さて堺なら環濠復活？分かっていても、なかなか進みません。



そこで堺旧港ベイエリアをご案内して、歴史の息吹を感じていただくことが肝要です。観光ガイドは、ありきたりのことではお客様の満足度が上がりませんので、頭の中に豆知識を集合させて、広角的に楽しくご案内したいものです。堺駅前のロータリーの名前は何か、吾妻橋？鉄道が出来た時の駅名が「あづまばしステーション」だったから？傍に「吾妻橋」があるから。正解かもしれません。でも吾妻橋は東京のスカイツリー地域と浅草寺地域を結ぶ観光名所のブリッジ、出来たのは数百年前です。では、なぜ堺に吾妻橋があって誰が名付けたのか。吾妻橋の近くに「吉川俵右衛門屋敷跡」の碑があります。堺港の修築に功績のある、江戸の材木商だったこの方の江戸屋敷跡が吾妻橋の傍らにあります。関係ありそうですね。

堺旧港の観光スポット旧堺燈台、まずは燈台と灯台の違いは？堺燈台とは建造物としての正式名称、堺灯台と書くと堺に立っている灯台という意味。「日本最古の現地に現存する木造洋式燈台」(1877)とご案内しています。日本最古を付けるとこのようになってしまいます。最古の灯台は遣唐使船の目印の篝火(839)、最古の建設は住吉大社の高灯籠(鎌倉時代)、現地に現存する最古は明石港の旧燈台(1657)、最初の洋式は観音埼燈台(1869)、最古の木造は石川県福浦燈台(1876)です。さらに埼と崎の違いや、堺燈台の作り方や民衆の力や全国の灯台との違いなど全てを話していると夕陽の絶景が見えてしまって、さらに時間切れになるので終了予定時間は厳守することを心がけましょう。



吉川俵右衛門屋敷



大浜公園の擁護璽

大浜公園内に擁護璽があります。この石碑は安政南海地震(1854.12.24)の被災後に建立(1856.7)されました。堺では一基のみの自然災害伝承碑です。一等三角点、ラヂオ塔、当時東洋一と言われた博覧会附属水族館(堺水族館の前身)が建設され明治天皇が同年5月5日に水族館を御巡覧(1903.5.5)されたこと、大阪窯業煉瓦工場(この場所ではない)跡などをご案内すると堺の近代史が垣間見えます。樺太犬タロ・ジロ慰霊像なども、お客様の年代によっては、反応が大きいスポットです。